

(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進		(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実	
ア 環境副教材・教師用手引書	5	ア 学習支援等	② 26
イ 環境教育へのクリック募金	7	イ 各種講座等の実施	② 27
ウ エコライフレポート	9	ウ さっぽろこども環境コンテスト	28
エ 校外学習用バス	14	エ サステナ KIDS AWARD	34
オ 学校での出前講座の実施	17		
カ 環境に関する全園・全校の取組	① 19	(4) 普及啓発のための情報の発信と広報と行動の後押し	
		ア 環境プラザの情報発信	② 36
(2)「環境人材」の育成		イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み	② 37
ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣	② 20	ウ 環境広場さっぽろの開催	38
イ こどもエコクラブ	② 21	エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行	40
ウ 指導者向け研修	② 22		
エ 環境教育・子どもワークショップ	23	(5) 基本方針に該当しないもの	
オ 教員に向けた研修	① 25	札幌市の子どもたちへの環境教育・環境学習や啓発活動の推進に関する連携協定	42

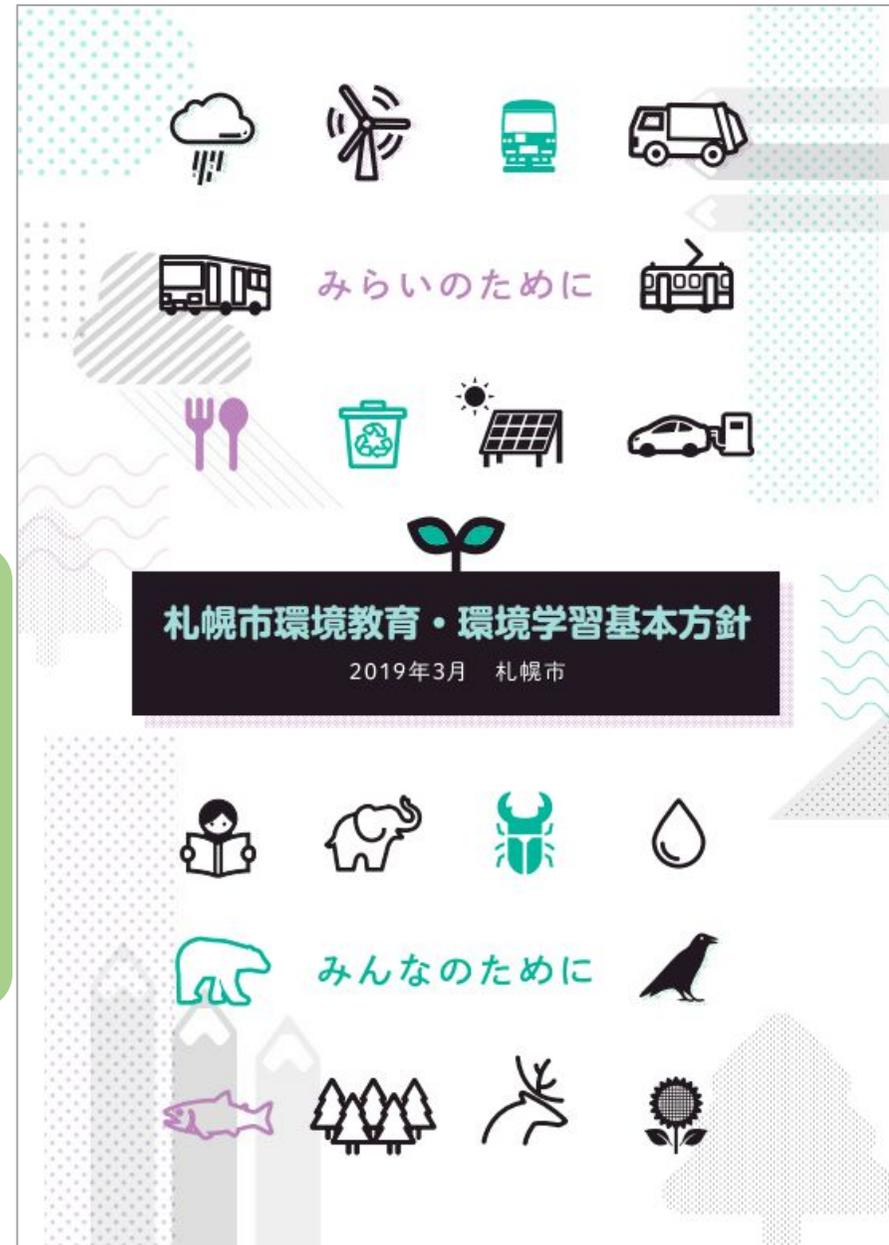
札幌市環境教育・環境学習基本方針に基づき、 環境教育・環境学習の取組を推進しています

基本理念

- 未来を想い、みんなを思い、
真剣に考え行動できる**環境市民**を育てます

札幌市が主体となって推進する4つの取組

- (1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進
 - (2) 「環境人材」の育成
 - (3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実
 - (4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し
- 本資料では、4つの取組に沿って、
R7の実施結果及び今後の予定、方針を報告します



(1) 学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進

- 子どもたちが、学校での授業や総合的な学習の時間等で学んだ環境問題を体系的・計画的に理解を深めることができるよう、地域や事業者、市各部局等と連携しながら子どもたち等への環境教育・環境学習の機会を提供します。

(2) 「環境人材」の育成

- 自然体験活動などを行っている人や特に優れた環境保全活動を行っている専門家の情報を収集し、活動の質の向上を支援したり、これらの人々の活躍の場を増やしていきます。

(3) 環境教育・環境学習の場と機会の充実

- 学校等以外で行われる環境教育・環境学習を支援するため、環境関連施設等の充実を図ります。
また、イベント等での普及啓発に加え活動の表彰などを通じて、環境教育・環境学習の活性化を支援します。

(4) 普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し

- 家庭・学校・地域・事業者等の各主体における自主的な環境活動が円滑に行えるよう、関連情報を取りまとめ効果的に情報提供を行うほか、広報活動等を通じて市民一人一人が環境配慮行動を自発的に行えるような後押しを行います。

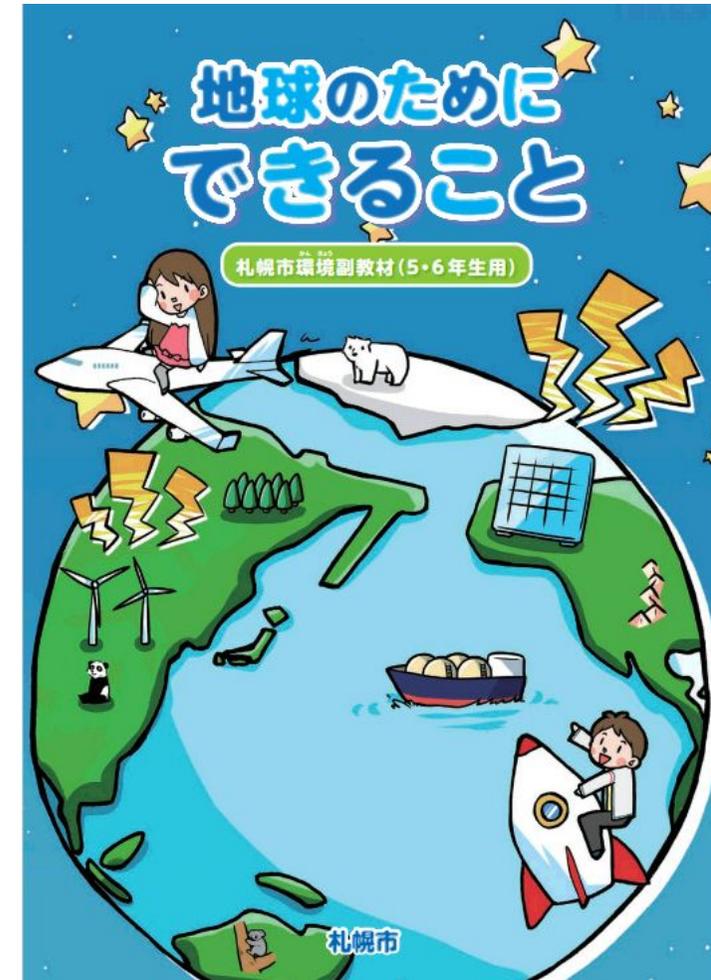
ア 環境副教材・教師用手引書

事業概要

- 毎年度、市立小学校の1、3、5年生の全児童に配布し、それぞれ2か年利用
- 併せて教師用手引書も作成
- 理科、社会科、家庭科、生活科、特別な教科道徳を担当する教員から構成するワーキンググループにより毎年度改訂

これまでの経緯

- 平成13年度から継続中
- 小学校教員対象のアンケート結果(R6.11実施)に基づき、紙冊子を廃止し、電子化(デジタルブック化)を調整中
- 電子化にあわせ、教材としての活用性改善のため、学年別から分野別に内容再編作業を進行中
- 内容再編のため、札幌市小中学校環境教育研究会の協力のもと、同会の会員である教員をワーキンググループに追加して事業進行している



▲ 5・6年生用表紙

ア 環境副教材・教師用手引書

R7の結果と今後の予定

- 例年実施していた次年度用副教材の予算(編纂、印刷、配送)をデジタル化と内容再編に振替え、R8年9月リリースを目標にデジタルブック作成中
- 関連する教材やサイトへのリンクや、動画コンテンツの埋め込みなど、デジタルブックのメリットを活用する方針

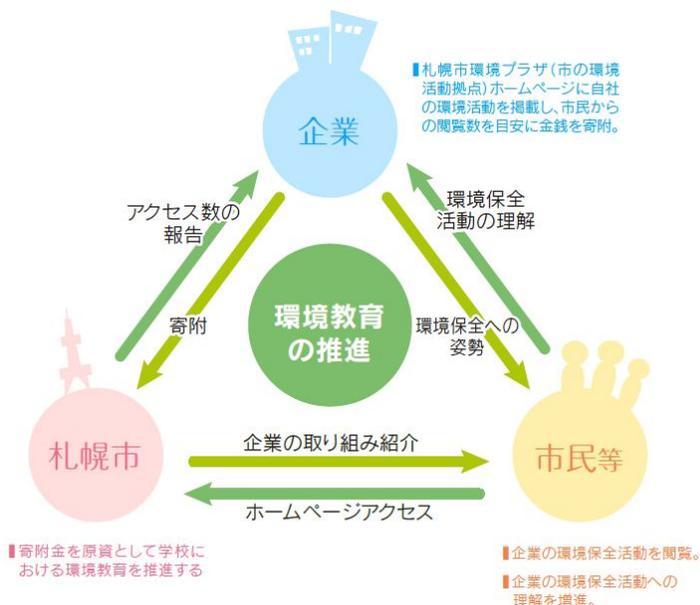
▼ 学年別→分野別のイメージ



イ 環境教育へのクリック募金

事業概要とこれまでの経緯

- 平成18年度に開始した、インターネットを活用した環境教育への支援制度
- 事業スキーム(右図)
 - ①札幌市: 協力企業の環境活動を環境プラザHPで紹介
 - ②市民等: 紹介ページを閲覧(クリック)
 - ③札幌市: クリック数を集計、企業に報告
 - ④協力企業: クリック数に応じ、環境局に寄付
 - ⑤札幌市: 寄付を原資に環境教育教材を購入、学校へ寄贈
- 例年、上限額いっぱいのお金を得られているところ



寄付金額

- 1クリック5円、1社あたり月2万円まで(最大で年24万円)

協力企業一覧 (R7時点7社)

- 北海道ガス株式会社
- 北海道ペットボトルリサイクル株式会社
- 札幌第一清掃株式会社
- 株式会社公清企業
- 北清商事株式会社
- 株式会社東部清掃
- 株式会社マテック



参考リンク | 札幌市 HP <https://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/bokin/index.html>

環境プラザHP <https://www.kankyo.sl-plaza.jp/bokin/>

イ 環境教育へのクリック募金

R7の結果

- R6年度中のクリック数に応じ、7社から合計168万円のご寄附を受領
- 1校当たり上限を3万5千円に増額(R6年度:3万円)
- 前年を上回る93校の応募、抽選により67校に寄贈を決定

寄贈した教材と活用例(寄贈校の活用報告書を要約)

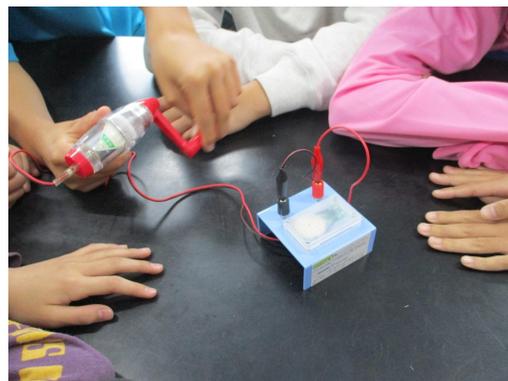
寄贈教材

手回し発電機用オルゴール(篠路小学校)

気体検知管(西小学校)

概要

発電機に直接つないだオルゴールから音が出ることで、電気エネルギーが音エネルギーに変換されていることを児童が実感することができた。



「ろうそくが燃えると、空気中の酸素の一部が使われて二酸化炭素へ変化する」ことが実験を通して確認できた。



今後の予定

- 次年度も現状の制度を継続

ウ エコライフレポート

参考資料1

事業概要

- 夏休み及び冬休みの前に、市立小中学校の全児童・生徒に家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配布し、子どもたちをはじめ、家庭におけるエコ行動を促す取組
- 学校単位で子どもたちの取組結果を二酸化炭素削減効果に換算し、「認定証」を配布
- 認定証では、子どもたちが自ら考えて実践した取組の中でユニークなものを、「他にもこんな取組をしてくれました」という欄で紹介

これまでの経緯

- 平成19年度にスタートし、恒例の宿題という印象ももたれている
- 紙を各学校で回収・保管し、環境局において集約・集計するという事務の負担軽減のため、R4から「Googleフォーム」を活用し、結果を電子集計する形式に変更
(操作不慣れで一時的に取組率が低下した)
- 紙媒体であることで親世代の目にもつきやすく、エコ行動の促進に寄与するとの考えから、紙媒体の配布を継続中



▲ R7年度 冬版 4～6年生用

ウ エコライフレポート

参考資料1

R7の結果(夏休み分)

概要

- 「未来の地球のために取り組もう！」をキャッチフレーズとし、サステナKIDS AWARDで優秀な賞を獲得したアイデアを織り交ぜ、自然体験や食品ロス防止などに取り組んでもらう内容
- 中学生向けは、地球温暖化についてより深い学びをできるよう、デザインや内容を一新

実績

	取組学校数 [校]	取組人数 [人]	(児童・生徒数) [人]	取組率 [%]	(R6夏) [%]	CO ₂ 削減量 [kg-CO ₂]	(R6夏) [%]
小学生	198	77,009	(85,173)	90.4	(89.4)	1,668,504	(217,773)
中学生	98	34,924	(43,705)	79.9	(79.1)	1,350,358	(81,134)
合計	296	111,933	(128,878)	86.9	(86.0)	3,018,862	(298,907)

※CO₂削減量は子どもたちの取組項目からの1か月の推計値

ウ エコライフレポート

参考資料1

R7の結果(夏休み分) よく取り組んだ項目と取組率(複数回答)

	小学校低学年	小学校高学年	中学校
1	すいどうやシャワーのみずを だしっぱなしにしない。[89.7%]	水道やシャワーの水を 出しっぱなしにしない。[90.3%]	水道やシャワーの水を 出しっぱなしにしない。[88.2%]
2	ごみはきちんとわけてリサイクル。 [78.8%]	ごみはきちんと分けてリサイクル。 [81.5%]	今持っている服を長く大切に着る。 [83.6%]
3	エアコンのおんどをさげすぎない。 [71.5%]	食べ残しをしない。[75.5%]	徒歩・自転車・公共交通機関を 利用する。[79.1%]
4	しぜんのなかにでかける。 [70.0%]	エアコンの温度を下げ過ぎない。 [66.5%]	食べ残しをしない。 [76.7%]
5	たべのこしをしない。 [68.6%]	自然の中に出かける。 [63.9%]	マイバッグ、マイボトルを使う。 [67.7%]
6	こうきょうこうつうきかんを りようする。[51.5%]	自由記述欄 [52.2%]	エアコンの温度を下げ過ぎない。 [59.5%]
7	—	公共交通機関を利用する。 [50.9%]	自由記述欄 [43.3%]

ウ エコライフレポート

参考資料1

R7の結果(夏休み分)

自由記載欄の取組内容(抜粋)

小学校高学年

- なるべく、家族みんなで同じ部屋にいるように頑張る
- ゲームをやりすぎない
- 道内の食べ物を食べる
- 冷蔵庫の開けしめを少なくした
- お下がりを着る
- 焚き火をしすぎない
- 早寝早起き
- 水をリサイクルして使った
- 扇風機を回し続けない
- うちわを使うなど、エアコンなどに頼らずに涼しくした
- いらないものは買わない
- クーラーを買わない
- ティッシュを使いすぎない
- ポイ捨てをしない
- 外に運動をしに行く
- エコバッグを使う
- なるべく涼しい格好をする
- どんなばしょでもゴミ拾いをする
- グリーンカーテンやすだれを使う

中学校

- スマホを使いすぎない
- 地産地消を心がける
- なるべく、ごみが出ないようにする
- 使わない紙をメモ代わりに使う
- 気温にあった服装をする
- 図書館などの涼しい場所に行って家のエアコンを使わない
- ネッククーラーを使う
- ボランティアゴミ拾い
- エコの商品などを買う
- エアコンなどを使わず、まず体が冷えるグッズを使ったりする
- 移動は、走った
- 冷蔵庫のドアを開けっぱなしにしないで開けしめの回数も少なくする
- 必要な分だけ買う
- 親戚から服をもらって着た
- 段ボールなどを入れ物の箱にしたり再利用した
- 洗剤を使いすぎない
- ごみ拾いした
- 涼しい公共施設に行く
- コンセントからプラグを抜く

ウ エコライフレポート

参考資料1

R7の結果(冬休み分)

概要

- 夏の方針を引継ぎ、本会議での意見も踏まえ、地産地消などの内容を取り入れた内容

年度	取組学校数 [校]		児童・生徒数 [人]		取組人数 [人]		取組率 [%]	
	夏	冬	夏	冬	夏	冬	夏	冬
令和3年度	296	296	133,335	133,335	125,221	123,329	93.9	92.5
令和4年度	297	273	132,541	123,064	108,614	105,814	81.9	85.9
令和5年度	293	296	130,679	131,240	111,685	112,981	85.5	86.1
令和6年度	296	296	130,776	130,776	112,423	113,359	86.0	86.7
令和7年度	296	(集計中)	128,878	(集計中)	111,933	(集計中)	86.9	(集計中)

- 保護者向けアンケートを掲載し、家庭内への波及効果を測定 (令和8年1月8日時点で回答数24件)

エコライフレポートについて、良かった点、改善してほしい点、期待すること(自由記載、一部抜粋)

- 子どもにエコや環境について、意識させる良い機会になったと思う
- 子どもが意識づけて継続して行動してくれるよう、一緒に取り組みたい
- 毎日丸つけをする欄があった方が、子ども取り組みを思い出すと思う

現在ご家庭で取り組んでいる環境保全のための取組(複数回答、上位5項目)

取組項目	回答
ごみの分別	22件(91.7%)
マイバッグ、マイボトルの使用	18件(75%)
食品ロスの削減	17件(70.8%)
電気、水の省エネ	16件(66.7%)
エアコンや暖房器具の適正使用	12件(50%)

エ 校外学習用バス

事業概要とこれまでの経緯

- 市内小中学校を対象に校外学習用バスの手配し、環境に関する体験学習を支援する事業
- 平成19年度に開始し、平成28年度から市外近郊や民間施設も見学対象施設に追加
- 校外学習の参考となるよう、太陽光発電や風力発電の設備LNG(液化天然ガス)基地などを組み込んだモデルコースを紹介しているほか、各学校が独自に希望する見学先についても対応

R7結果

- 応募68校中、抽選により32校に利用案内
- ヒグマ出没による目的地の休業や感染症による学級閉鎖などで一部キャンセルが発生

	R3	R4	R5	R6	R7
応募校数	29校	57校	94校	60校	68校
利用校数	29校	35校	7校	27校	31校
バス利用台数	94台	114台	12台	59台	62台

主な見学先(R7)	見学校数
石狩LNG基地	6
白石清掃工場	6
円山動物園	4
駒岡清掃工場	4
駒岡選別資源センター	4
水道記念館	4
モエレ沼公園	4
発寒清掃工場	3
中沼プラスチック選別センター	3

※校数、台数は延べ数

※R5は新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う
バス不足等により、規模縮小

エ 校外学習用バス

R7バス利用校の紹介(実施報告書から一部抜粋、要約)

円山動物園(もみじの丘小学校1、2年生)

1・2年生合同の学習により、異学年の交流から役割意識をもって活動に取り組む姿が見られた。
肌寒い日であったが、環境バスの利用により暖かく安全な活動となり、全行程を終えることができた。



市内の玉ねぎ農家(北光小学校3年生)

畑を訪問し、玉ねぎの栽培から出荷までの流れを学んだ。
農家の方からは、「地球温暖化の影響なのか、近年は玉ねぎの収穫量が以前より減ってきている」との話があり、地球温暖化などの環境変化が農業に影響を及ぼしていることを知り、身近な問題として捉える姿が見られた。

エ 校外学習用バス

今後の予定

- **事業の見直し(現在抱えている課題)**
 - **事業の意義**
環境教育の視点が抜け、無料の移動手段として見なされつつある
 - **経費、事業者手配**
バスの保有台数、運転手の都合、費用高騰などから事業規模の維持に課題
R5:バス台数や運転手の不足等から、応札がなく入札不調
R6:希望調査時期を早め、新たに旅行業者を入札参加資格者に加え、無事落札
 - **実施時期に係る学校からの要望**
現状:10月下旬~12月上旬
要望:夏休み前後(7・9~10月)
→観光客や修学旅行のハイシーズンで、バス会社や旅行会社が対応不可
要望理由:学級閉鎖で利用できなかったのでインフルエンザ流行期はやめてほしい
もっと早い時期にやってもらわないと生徒が授業で学んだ内容を忘れる 等
 - **学校からの行先変更の要望が多く、バス業者の負担大**
申込内容にある行先から距離と時間を積算して委託しているが、
行先・日程変更を要望してくる学校が後を立たず、調整に負担R7(は32校中17校が変更)
主な変更理由:見学先施設の開館時期の確認不足 等

オ 学校での出前講座の実施

事業概要

- 市民への情報提供と対話の一環として、申し込みに応じて市職員が出向き、所管事業について分かりやすく説明を行う全市的な事業
- 環境局環境政策課では、以下の2テーマ
 - アニメで学ぶ！地球温暖化 ～小・中学生のわたしたちにできること～
 - 気候が変動するってどういうこと？～SDGsの視点から考える、わたしたちができること～
- SDGsの普及や地球温暖化・気候変動への関心の高まりなどから、学校における総合学習などの授業の一環として活用されている



原案:手塚治虫

声の出演:本田望結、田中あいみ、千葉繁など

オ 学校での出前講座の実施

R7の結果と今後の予定

- 実施回数は下表参照
- 引き続き、事業を継続していく

	R3	R4	R5	R6	R7※
小学校	5件 (351人)	4件 (214人)	6件 (298人)	6件 (538人)	5件 (290人)
中学校	8件 (1,202人)	4件 (798人)	9件 (561人)	5件 (105人)	2件 (26人)
高等学校	4件 (365人)	5件 (960人)	3件 (50人)	2件 (24人)	0件 (0人)
合計	17件 (1,918人)	13件 (1,972人)	18件 (909人)	13件 (667人)	7件 (316人)

※令和7年12月末現在

カ 環境に関する全園・全校の取組

教育委員会

事業概要とこれまでの経緯

- 「環境首都・札幌」の宣言日である6月25日を契機に「さっぽろっ子環境ウィーク」期間を設定
- 全ての市立園・学校がエコスクール宣言校として、環境に関わる取組(エコアクション)を重点的に見つめなおす
- 各校で、課題探究的な学習と自治的な活動の中にエコアクションを位置付け、札幌市の幼児児童生徒に環境を守り育てようとする態度を育んでいる

R8の予定

- 「さっぽろっ子環境ウィーク」に、市立高校の生徒が作成した動画などを児童生徒が視聴し、環境に関する問題を考え、課題探究的な学習や自治的な活動において取組を実践していく



▲「シマエナガちゃんとなまぼうっ!!」より



▲小中学校、地域が連携した清掃活動の様子

ア 環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣

環境プラザ

概要

札幌市環境保全アドバイザー派遣制度 (令和7年4月1日現在 8人)

地球環境、自然保護、リサイクル、ごみ問題等など、環境分野の研修会や学習会等に専門家を派遣

札幌市環境教育リーダー派遣制度 (令和7年4月1日現在 24人)

主として野外での活動を通して、植物、野鳥、昆虫、水生生物などの自然観察会や地球温暖化、ごみ、エコライフ分野の指導者や解説者を派遣

R7の結果と今後の予定

- 例年、川での自然観察、自然体験活動が多く、全体の半数以上の依頼が川での活動
- 市近郊の自然を活かし、体験機会の多様化を促すきっかけとなる事業を検討したい
- 小学校、幼稚園・保育園の依頼が多く安全管理面での留意点が多い
講師のみなさまとも共有しながら、利用者の希望に寄り添った支援を継続していきたい

		R3	R4	R5	R6	R7※
アドバイザー	派遣件数	15件	18件	27件	21件	24件
	(参加人数)	(327人)	(479人)	(1,204人)	(1,053人)	(862人)
	<登録者数>	<11人>	<10人>	<9人>	<8人>	<8人>
リーダー	派遣件数	36件	64件	59件	49件	46件
	(参加人数)	(833人)	(1,463人)	(1,424人)	(1,176人)	(1,093人)
	<登録者数>	<28人>	<26人>	<23人>	<28人>	<24人>

※令和7年12月末現在

イ こどもエコクラブ

環境プラザ

事業概要

- (公財)日本環境協会が実施するこどもエコクラブの札幌事務局として、登録団体等への情報提供
- さっぽろあそエコ団の運営

R7の結果と今後の予定

- こどもエコクラブ交流会

令和7年度は各クラブの活動報告後に、札幌市豊平川さけ科学館にて施設見学ツアーおよびサケの採卵体験プログラムに参加。市内の川を遡上してくるサケを実地見学した他、施設内の展示や実際にサケの腹を捌く採卵実習など、クラブ間の交流に加え、身近な自然に生きる魚の生態系について学んだ。

今後もクラブ間の交流とあわせて、さまざまな体験活動を加えながら活動の活性化と環境保全への意識啓発を図りたい。



ウ 指導者向け研修

環境プラザ

R7の実施予定

- 北海道の景観を象徴する「防風林」を切り口とした研修を2月に実施予定

研修概要

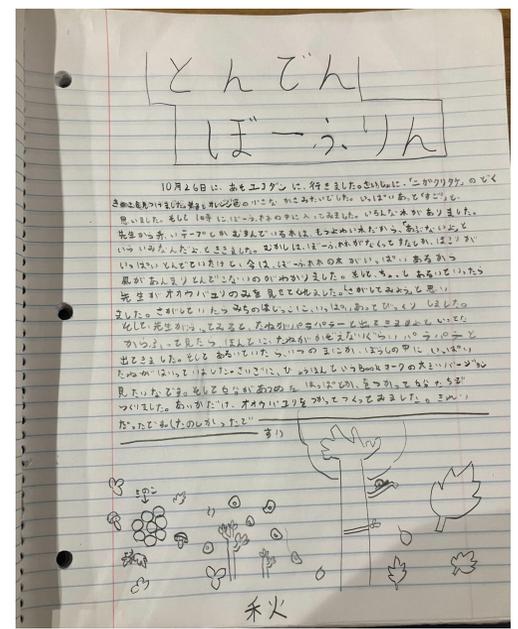
道産材や植物標本制作の実践を通じて、札幌圏の自然資源を教育プログラムへと昇華させる実践的なスキルを指導者が養うことで、各教育現場における学習の幅と質の向上を図る

対象者:主に小・中学生を対象に学習プログラムを提供している教員、放課後児童指導員

講師:北海道立総合研究機構 林業試験場 主査 速水 将人氏

日時:2月平日の夜間の予定(調整中)

場所:環境プラザ 環境研修室



エ 環境教育・子どもワークショップ

事業概要

- 未来を担う子どもたちが、地球環境を意識して生活する心を育み、自発的な行動につなげるきっかけとなることを目指して開催しているワークショップ
- 本部のメインファシリテーターから会場である各児童会館にオンラインでプログラム配信
会場ごとにもファシリテーターを配置し、子どもたちの対面コミュニケーションを誘導しつつオンラインで会場間での意見交換を行う
- 会場のファシリテーターには、環境教育に興味があり、ワークショップスキルを身に着けたい高校生、大学生世代を募集し、養成講座を経て登用。子どものみならず、ユース世代の人材育成を図る事業となっている。



これまでの経緯

- R2年度に、大人向けに開催していたワークショップを子ども向けにアレンジして開催し、以後毎年開催
- コロナ禍において対面開催が難しかった背景から、「オンラインで各会場をつなぐ」という形式を採用し、以後継続している。

エ 環境教育・子どもワークショップ

R7の実施状況

- R8年2月21日(土)に5か所の児童会館で実施予定、現在準備中

R8の予定

- 以下の課題の解決に向け、事業見直しを検討中
 - **プログラム内容に関する課題**
現状の1時間のプログラムでは、提供できる学びの質・量ともに制約が生じているため、ナッジ(Nudge)理論を活用したゲーム形式等への転換など、より自発的かつ質の高い学びを提供できる手法を検討する必要がある。
 - **対象年齢に関する課題**
開催場所が児童会館であるという特性上、参加者層が低学年に集中しており、プログラムも低学年を狙った内容に偏ってきている。
 - **開催形式に関する課題**
コロナ禍において有用であったオンライン形式は、通信環境の構築や運営体制の維持に要する費用負担が大きく、費用対効果の観点から最適とは言えない。
 - **人材育成要素に関する課題**
ユース人材の育成には、養成講座だけでなく数多くの現場経験が不可欠だが、現行の「1回1時間の派遣型WS」では育成効果が限定的である。

オ 教員に向けた研修

教育委員会

事業概要とこれまでの経緯

- 札幌市の学校教育に携わる教職員の資質向上と専門的な力量を高めることを目的に、「SDGsの基礎」や「環境教育に役立つ施設活用」など環境教育に関する専門的研修を実施
- 講義・演習に加え、施設における体験活動を通して深めた理解を授業づくりにつなげることで、より日常の教育活動に生かすことが可能な研修を実施

R7実施状況

研修名	日時	参加者数
学校教育に生かすSDGsの考え方	令和7年8月7日午後	20人
環境教育へ役立つ施設の活用～円山動物園①体験編～	令和7年8月21日午前	33人
環境教育へ役立つ施設の活用～円山動物園②授業づくり編～	令和7年8月21日午後	25人

※3件とも、円山動物園保全・教育推進課の職員が講師を担当

- 教員の授業実践に生かすため、実見学や実体験を通して理解を深めることができる場所として、環境教育の取組を進めている札幌市の施設である円山動物園を研修場所として選定。

ア 学習支援等

環境プラザ

事業概要とこれまでの経緯

- 見学者への展示解説、展示物を利用した見学者向け環境教育プログラム、教材の貸し出しなど
- 令和6年度末に見学ツアーのパンフレットを更新し、令和7年度の見学受入数の増加をねらった広報を実施

結果、実施状況

- 近年の環境意識の高まり等を受け、当施設での見学および総合学習の受入人数は増加している。特に、SDGsをテーマとした探究学習のニーズが増加しており、学校団体を中心に利用が拡大している。
- 今後も増加する利用者に対し、展示内容の充実や学習プログラムの質的向上を図るとともに、効率的な受入体制の整備を推進し、地域における環境教育の拠点機能を一層強化していきたい。

	R3	R4	R5	R6	R7※
施設見学	167人	417人	611人	557人	750人
総合学習	47人	591人	508人	539人	496人
教材貸出	72件	102件	91件	99件	111件

※令和7年12月末現在

イ 各種講座等の実施

環境プラザ

R7実施状況

- 「(一社)楽子森」と連携した木育に関連したワークショップを開催
- 青少年科学館の天文指導員による光害についての講話を交えた星空観察会を開催
- 海鳥センターの職員による海鳥のヒナの飼育体験アクティビティを通じた海鳥の生態や海洋プラスチックごみについての学習会を開催
- 「Heal北海道」と連携したフードマイレージに関連した調理体験プログラムを開催



ウ さっぽろこども環境コンテスト

事業概要

- 小中学生が、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテスト
- 発表を通じて、周囲の子どもたちのほか、大人たちにも活動の輪を広げていくことが目的
- コンテストにて最優秀賞を受賞した学校・団体は市長報告会(市長の前での発表会)に招待
- 審査には、本会議の委員にもご参加いただいている

これまでの経緯

- 平成20年度から継続して実施
- 環境の取組を継続して実施し、コンテストで毎年発表してくれた旭山自然調査隊、米里中学校科学部が、令和7年6月に「環境保全活動功労者」として北海道知事表彰



▲ さっぽろこども環境コンテスト2024の様子

ウ さっぽろこども環境コンテスト

R7の結果(発表団体、発表タイトルと概要)

- 令和7年12月6日(土)にコンテストを開催、11団体が参加
- 小学校の部(4団体、五十音順)

団体名	発表タイトル及び概要
小野幌小学校	<u>学習公園の落ち葉を生かした腐葉土作りと栽培活動</u> 空になったうさぎ小屋を活用しての学習公園で集めた落ち葉による腐葉土作り。作った腐葉土は学校の農園の畑や花壇で利用。
駒岡小学校	<u>学校林守り隊、生かし隊</u> 学校林を活用したツリークライミングなどの体づくり。剪定された丸太を薪や工作への再利用。林業従事者や樹木医を通じた木の学習の実施。
田中学園 立命館慶祥小学校	<u>「世界に貢献」～田中学園 LINK活動4年間の軌跡</u> 4つのチームに分かれ、各チームで動物保護や動物との共生、海洋ごみの削減、フードロスの削減などの取組を実施。
北光小学校	<u>フードロス減らそうプロジェクト</u> 学内全体にフードロス削減を周知。クラスごとに給食準備の時間(食事時間確保のため)や給食残量を計測し表彰。「フードロス減らそうフェスティバル」の開催。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

R7の結果(発表団体、発表タイトルと概要)

- 令和7年12月6日(土)にコンテストを開催、11団体が参加
- 中学校の部(3団体、五十音順)

団体名	発表タイトル及び概要
義務教育学校 定山溪学園	<u>生き物にやさしい森を創ろう</u> 巣箱や樹名板の設置、苗木の植栽や移植、堆肥作りやウッドチップによる遊歩道の整備等を通じた「夢の森」作りの実施。
西野中学校	<u>植物で暑さを乗り越えよう!</u> ゴーヤやきゅうりによるグリーンカーテンを教室に設置。 温度計と二酸化炭素濃度計を用いてカーテンの有無による比較を計測。
米里中学校科学部	<u>望月寒川の生物調査 13年目</u> 望月寒川の生物調査や水温・水質調査を継続して実施。 ウグイやナマズ、絶滅危惧種であるエゾホトケドジョウの生息を確認。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

R7の結果(発表団体、発表タイトルと概要)

- 令和7年12月6日(土)にコンテストを開催、11団体が参加
- 学校外団体の部(4団体、五十音順)

団体名	発表タイトル及び概要
旭山自然調査隊	<u>私たちの守るもの 2025</u> 旭山の自然や生き物を守るため、エコスタック(落ち葉をためる枠)や「かなちよろ旅館」(生き物のすみか)作り、池のヘドロ除去などの実施。
五天山自然観察クラブ	<u>人が壊した自然を取り戻すには ~自然林再生活動から学ぶこと~</u> 西区五天山公園の自然林再生活動を実施。外来種樹木の侵食や動物の食害などの困難に直面しながら苗づくりや植樹、樹木測定などを実施。
さっぽろあそエコ団	<u>さっぽろの自然を守るためにわたしたちにできること</u> さっぽろ圏の川、海、森をフィールドに、生物観察やビーチコーミング、防風林の役割を学びながらの散策などの自然体験を実施。
定山溪児童会館	<u>定山溪こどもかわまちづくりプロジェクト</u> 「かわまちづくり計画」に登録された定山溪を舞台に、生物観察や魚釣り・調理などの自然体験、温泉街でのごみポイ捨て防止の街頭啓発を実施。

ウ さっぽろこども環境コンテスト

R7の結果(コンテスト結果)

- **審査体制**

審査員長	北海道大学文学研究院 教授	大沼 進 様
審査員	北海道エコビレッジ推進プロジェクト理事長	坂本 純科 様
	札幌藻岩高等学校 学校長	野口 浩史 様
	札幌市小中学校環境教育研究会 事務局長	高橋 浩史 様
	株式会社アドバコム 代表取締役	臼井 純信 様

- **審査項目 (22点満点)**

評価項目	内容(点数)
継続性・広がり	継続して活動でき、周囲の子どもたちや大人たちへ広がりが期待できるか。(5)
理解・認識	子どもたちが、活動の意義をよく理解しているか。(5)
効果	活動による環境保全への効果が大きいのか。(3)
着眼点・独創性	環境保全との繋がりに着目した、オリジナリティのある活動か。(3)
発表	発表が分かりやすくまとめられ、活動内容が伝えられたか。(3)
協力・協働	子どもたちが活動目標達成のために学び合ったり、協力し合っているか。(3)

※「協力・協働」の評価項目は令和5年度第2回推進委員会でのご意見を基に追加

ウ さっぽろこども環境コンテスト

R7の結果(コンテスト結果)

	小学校の部	中学校の部	学校外団体の部
最優秀賞	北光小学校	米里中学校	定山溪児童会館
優秀賞	田中学園立命館慶祥小学校	義務教育学校定山溪学園	五天山自然観察クラブ
特別賞	駒岡小学校 小野幌小学校 (エコチル特別賞)	西野中学校 (クリック募金特別賞)	旭山自然調査隊 さっぽろあそエコ団 (クリック募金特別賞)

今後の予定

- 令和8年1月22日(木)に市長報告会の予定
- 次年度以降も継続予定

エ サステナKIDS AWARD

事業概要

- (一社)SWiTCHとの共催、「若者共創プロジェクト」の取組
※主催は(一社)SWiTCH、札幌市は共催の立場
- 小学生～高校生を対象に企業や団体等の課題を「ミッション」として提示し、それを解決するアイデアをマンガ形式などで提案してもらい、課題を提出した各企業・団体や、秋元市長をはじめとした特別審査員により応募作品を審査する事業 ※R6実施実績

これまでの経緯

- G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合(R5.4)を契機とした(一社)SWiTCHとの連携事業として、「サステナKIDS AWARD札幌2025」をR7.3に初開催



第1回表彰式の様子
(特設HP掲載の報告書より引用)

エ サステナKIDS AWARD

R7の実施状況

- 第2回の開催「サステナKIDS AWARD 札幌2026」
- 対象を「さっぽろ連携中枢都市圏(※)」の小学生に変更し、昨年度とほぼ同じ形式により実施
※さっぽろ連携中枢都市圏:札幌市、小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、
当別町、新篠津村、南幌町、長沼町の 12市町村から構成する圏域
- ミッション提示団体数 17件
 - 札幌市環境政策課からのミッション
「環境にやさしい暖房で冬を暖かく快適に過ごせることを知らせてほしい！」
- 応募期間 ~2026年2月8日(日)
- 表彰式
日時 2026年3月14日(土)
会場 札幌エルプラザ公共4施設3階ホール

今後の予定

- 事業展開、継続については(一社)SWITCHとについて協議により検討する

ア 環境プラザの情報発信

環境プラザ

事業概要とこれまでの経緯

- 講師派遣や貸出教材、事業などについてホームページで情報提供
- フェイスブック、Instagramでの投稿や情報発信

R7の結果

HP	R3	R4	R5	R6	R7※
HPアクセス数	103,999	106,612	97,369	90,460	74,315

※令和7年12月末現在

SNS

- 効果的な発信とするため、よく見てもらえる時間帯として19時台の予約投稿と、定期的な配信に留意している。
プラザ内の展示や事業の広報ツールとして、今後は動画コンテンツも活用して発信していく。
- 閲覧数について、これまで300人程度のことが多かったが、今年度下半期に投稿時間帯を夜間に変更してからは、500～600人まで伸びている。
- インスタグラムのフォロワー数は419人(令和8年1月8日)
フォロワーの属性として、性別は「女性」が多く、年齢「35-44歳」が最も多い。

参考リンク | 環境プラザ HP <https://www.kankyo.sl-plaza.jp/>環境プラザ Instagram https://www.instagram.com/plaza_kankyo/環境プラザ Facebook <https://www.facebook.com/kankyo.sl.plaza/>

イ 「環境中間支援会議・北海道」の取り組み

環境プラザ

事業概要とこれまでの経緯

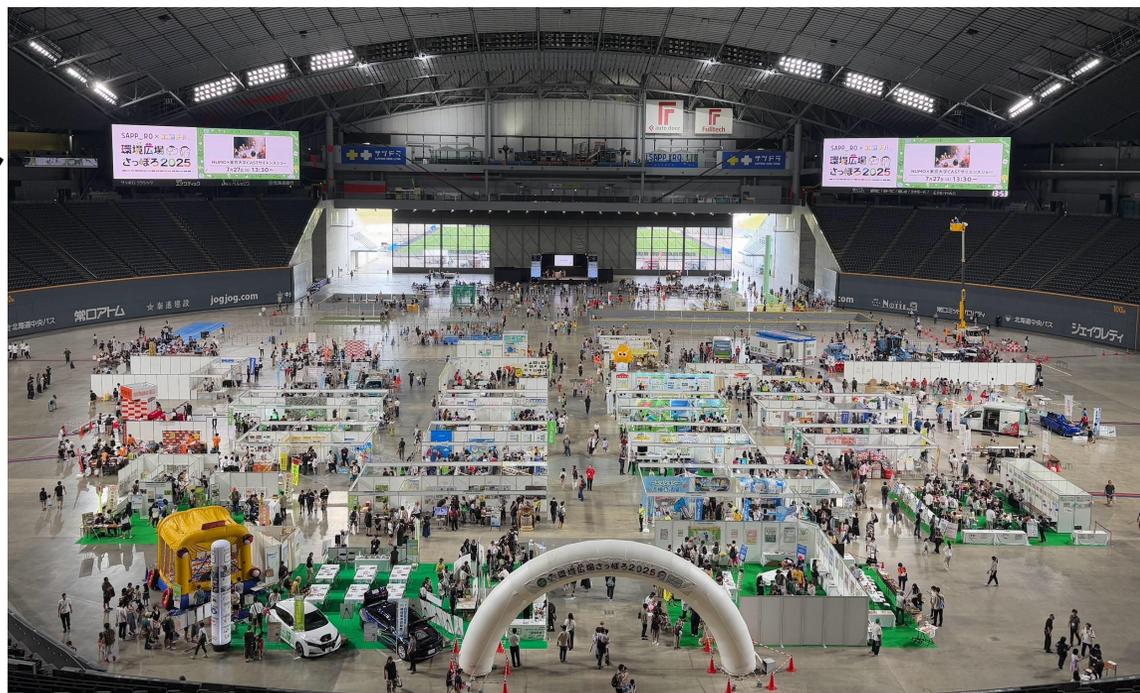
- 様々な組織との間に立って、情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議
- 環境省北海道環境パートナーシップオフィス(通称:EPO北海道)、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザが連携して、北海道内における様々な環境活動の支援を実施
- 環境省北海道地方環境事務所、北海道、札幌市もオブザーバーとして会議参加
- ホームページ「環境☆ナビ北海道」にて、環境に関するイベント情報等を配信



ウ 環境広場さっぽろの開催

事業概要

- 子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「未来を想う総合環境イベント」



これまでの経緯

- H10 初開催(R7で28回目)
- H30 会場をアクセスサッポロから札幌ドームに変更
子ども向けの普及啓発を主目的としたイベントに方針変更
- R2,3 札幌ドームをモデルとした仮想空間を会場とするオンラインイベントとして開催
(新型コロナウイルス感染症の拡大による)
- R5 「環境広場ほっかいどう2023」に参画(環境広場さっぽろは中止)
(G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合実行委員会主催事業)

ウ 環境広場さっぽろの開催

R7の結果

- 環境広場さっぽろ2025テーマ「ゼロカーボン×夏祭り！未来を創るエコアクションフェス」
- 令和7年7月26日(土)、27日(日) 大和ハウス プレミストドームで開催
- 2日間延べ18,455人が来場

環境広場さっぽろの来場者・出展者推移

	R2	R3	R4	R5※	R6	R7
来場者数	—	—	15,234人	56,199人	18,111人	18,455人
オンライン来場者数 (アクセス数)	19,806人	10,993人	6,036人	7,268人	—	—
出展企業・団体数	212件	197件	217件	161件	187件	188件

※R5は環境広場ほっかいどう

今後の予定

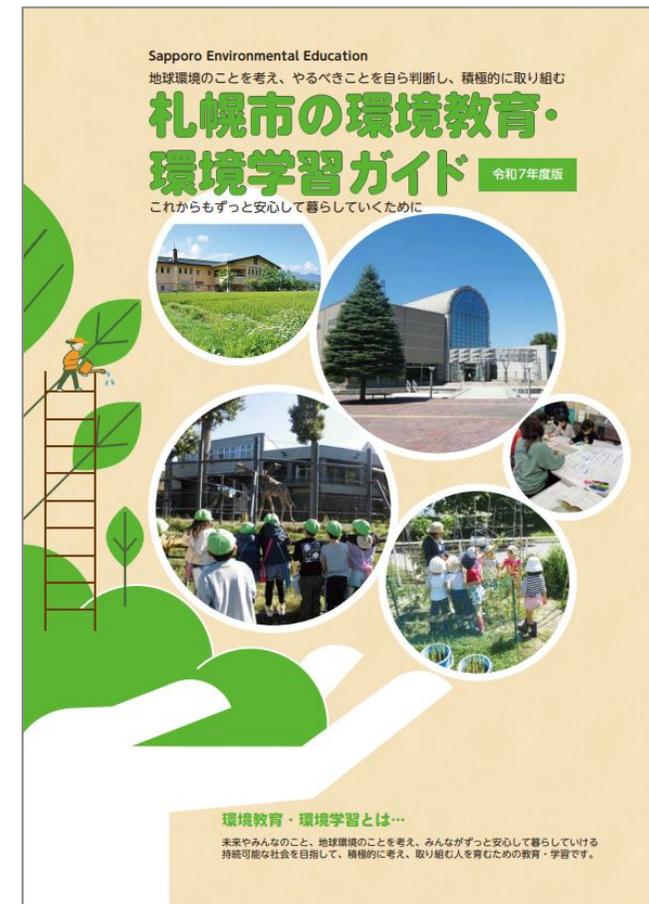
- 次年度も、夏休み中の土日での開催を想定して調整中

エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

参考資料2

事業概要とこれまでの経緯

- 「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて各部局が行っている取組を環境局でとりまとめた冊子
- 令和2年度に初版、毎年度内容更新して発行
- 学校や市民への広報・情報提供により、各取組への市民参加を促し、環境教育・環境学習の一層の推進を図る
- 各部局の環境教育・環境学習に対する意識を高め、基本方針の趣旨に沿った事業展開を促す



▲ 令和7年度版表紙

参考資料2

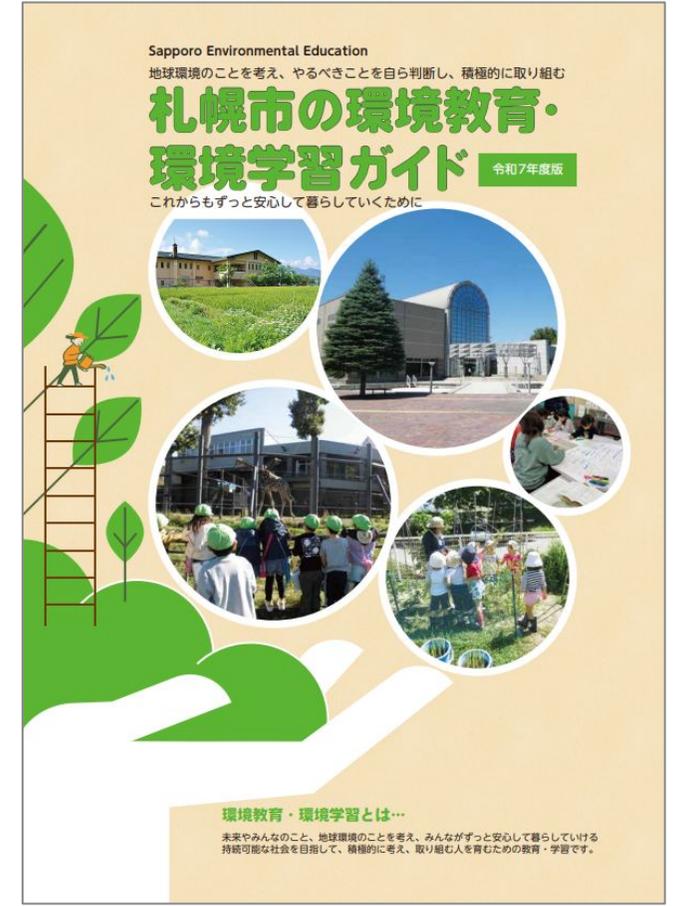
エ 「環境教育・環境学習ガイド」の発行

R7年度版取りまとめ結果 (R6年度実績)

基本方針の4つの取組に基づく分類	事業件数
学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進	13
「環境人材」の育成	4
環境教育・環境学習の場と機会の充実	111
普及啓発のための情報の発信と広報と行動の後押し	12
合計	140

今後の予定

- 冊子印刷をやめ、電子版のみとする



▲ 令和7年度版表紙

札幌市の子どもたちへの環境教育・環境学習や啓発活動の推進に関する連携協定

事業概要とこれまでの経緯

- 札幌市環境局、札幌市小中学校環境教育研究会(環教研)、(株)アドバコムとの3者協定を2025年7月26日に締結。環境広場さっぽろのステージで協定式を実施。
- 環境教育・環境学習や啓発活動の推進によって、子どもたちやその家庭、地域社会における環境意識の向上と行動変容を促すことを目的としている。

協定締結者との連携状況(令和7年度)

- 環境副教材のワーキンググループに環教研のメンバーである教員が参加
- 札幌市が(株)アドバコム主催「ENPITSU PROJECT」と環教研主催「サステナブル・ウイングス・トーナメント」への後援
- こども環境コンテストにエコチル特別賞を創設、(株)アドバコムと環教研より審査員として参加
- 環教研教員企画「山鼻小学校ごみ減量プロジェクト」本市職員による出前授業の実施、子どもたちのごみ減量アイデアの表彰、環境広場さっぽろでの成果発表を実施



▲ 協定締結式での記念撮影